

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[52]歳、 勤続年数[30]年、 現場経験年数[29] 年、 階級[消防司令]、 同様の活動 [過去に 1, 2 回程]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[34]歳、 勤続年数[16]年、 現場経験年数[15]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [初めて]、 任務 []
○当事者 C	年齢[24]歳、 勤続年数[6]年、 現場経験年数[5]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1 1 . 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A	助手席で衝突危険の対向車両を目視確認し、路肩・緊急停止用砂山を確認	
経過 2	当事者 B	機関員として、衝突危険の対向車両を目視確認して、路肩に緊急避難操作	
経過 3	当事者 C	後部席で衝突回避後の相手車両の動向を認識	
経過 4			
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

--

- 心理・体調について
 - a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

- b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○ 装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○ 活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○ 指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○ その他

l . その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○ 注意力欠如、焦り等の対策について

冬期間における救急等出動時にあっては、管轄内山間地域の路面凍結は避けられない。特に留意することは、日陰箇所のみが凍結している断続的ケースである。雪道に不慣れなドライバーが、4輪駆動車を過信して、徐行走行せずのスリップ事故を起こすことが多いことや、突然の降雪による路面凍結に対応できないことも考慮さ

○ 装備・資機材の対策について

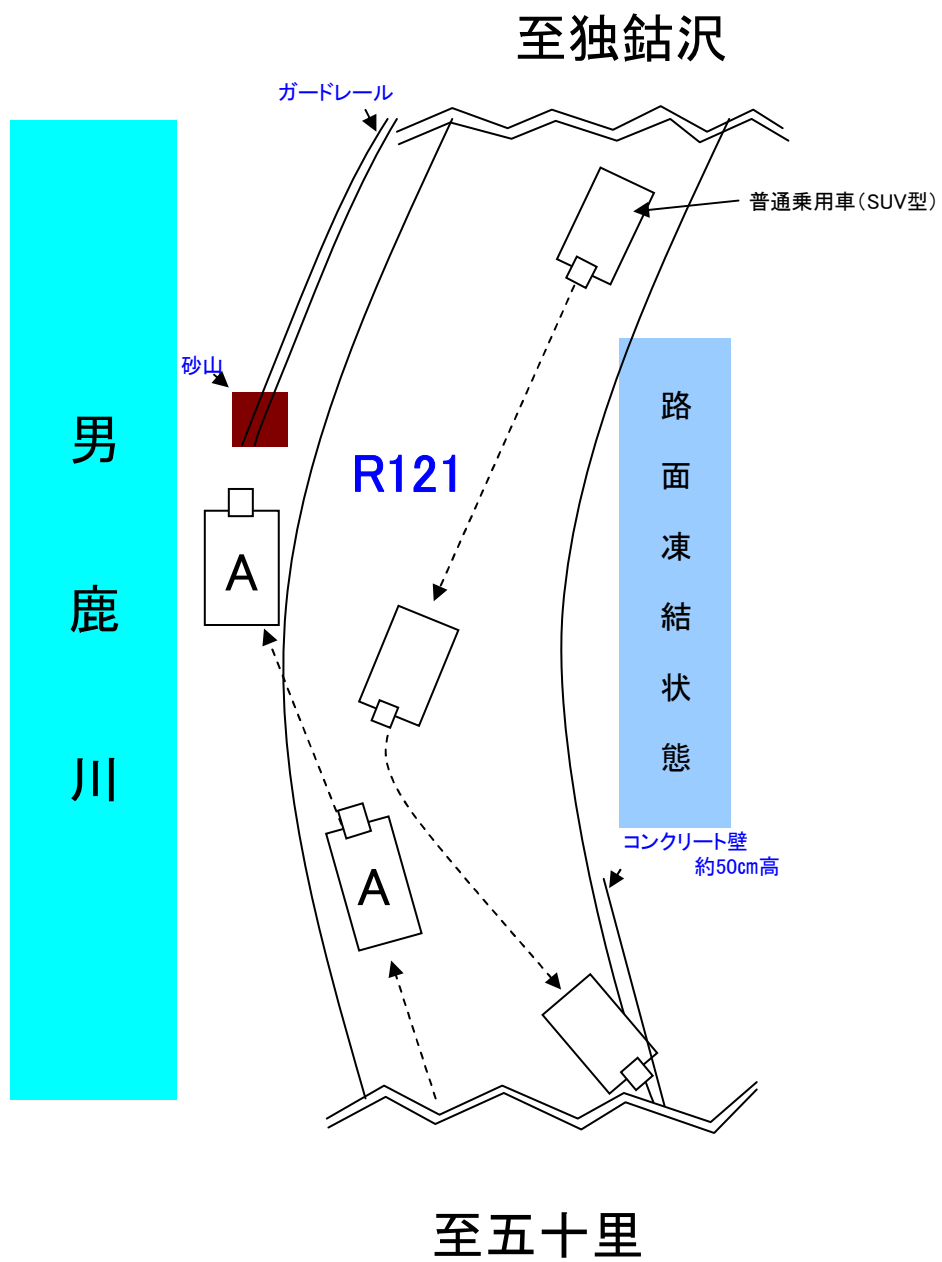
装備・資機材の点検は日常から実施すべきこと。特に冬期間使用スタットレスタイヤの性能度合いを常に点検確認する。タイヤ溝には留意。

○ 活動環境の対策について

降雪状況下における道路状況を、ある程度事前認識できるようにする。特に凍結し易い場所の事前把握をする。路肩状況・緊急避難停止用砂山の有無等及び必要場所の確認を実施する。

○ 指揮・情報伝達の対策について

緊急時において、指揮者(隊長)は冷静沈着な行動がより求められる。関係者を含めた情報伝達は事故発生時において、事故処理を迅速に対処するための重要なことである。ある程度シュミレートすることが大切。



〈 衝突回避略図 〉

- ・ 相手車両物損については関係者により単独事故として処理。
- ・ 救急車にあっては損傷無し。

